

第17回 開発・技術マネジメント 革新大会

グローバルR&Dマネジメントの新潮流を探る

変化する事業環境の下、研究・開発に携わられている皆様におかれましては、日頃から様々な課題解決に取り組まれていることと存じます。

毎年6月に開催をしております開発・技術マネジメント革新大会ですが、今年は、「グローバルR&Dマネジメントの新潮流を探る」を基本テーマとし、グローバル市場で日本企業が勝ち残るためのR&Dマネジメントのあり方、製品・技術革新・技術戦略、開発力強化、組織・人材革新等の事例を、志高く、視座も高い講演者の方々にご紹介いただきます。

当日は、R&Dマネジメント革新に取り組まれている志ある皆様同士の意見交換の場、課題解決の場にしたいと思っております。是非、ご参加をご検討いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

開催
日時

2013.6.13 (木)

9:45～18:30 (受付9:15～)

会場

東京コンファレンスセンター・品川

主催

株式会社日本能率協会コンサルティング

09:45～10:00	開催にあたり
10:00～11:20	基調講演:グローバル競争下での日本企業勝ち残りの条件 ～本田技研工業、サムスンSDIでのR&Dマネジメント実践を通じた考察～
11:30～12:30	特別講演:日本の産業競争力強化とR&Dマネジメント ～これからのR&Dマネジメントにおける定石と課題～
13:20～15:00 ◇午後1部	【A-1】日本のものづくり革新!『うるさら7』のコンカレント開発事例 【B-1】日本人の目で日本の組織や風土をばらす ～開発組織のグローバルな変革へのスタート～ 【C-1】R&D組織変革 =強く、はやく、そして勝つ=
15:20～17:00 ◇午後2部	【A-2】チャイナプラス、新たなアジアビジネス戦略構築にむけて 【B-2】アイザックコンセプト ～原理原則に立ち返った設計力強化への挑戦～ 【C-2】「おもしろいをかたち」を実現する研究所を目指して
17:10～18:30	参加者交流会

プログラム

Innovating
Force by JMAC

JMAC
JMA Consultants Inc.

円高、デフレ、新興国の台頭など、日本の製造業を取り巻く環境は過去に無く厳しい状況にあります。新政権の政策により改善の兆しは見られるものの、まだまだ厳しい状況は続くと思われまます。そのような中、日本のものづくりの復権に向けて我々は何をすべきでしょうか？

いま多くの製造業の重点課題として挙がるのは、「イノベーション」と「グローバル化」です。技術がビジネスに繋がらない、技術力が低下したなどという声をよく聞きますが、やはり核となるのはオンリーワン技術を創出する力であり、それをグローバルで顧客価値に変換する力であると思います。私達はコンサルティング現場でその底力が日本の企業にはまだまだあると実感しております。

そこで本大会では、「グローバルR&Dマネジメントの新潮流を探る」というテーマを企画致しました。今後の「イノベーション」と「グローバル化」の実現に向けて本大会参加者の皆様方と交流し、ディスカッションして参りたいと思います。



RD&Eマネジメント革新センター センター長 鬼東智昭

RD大会とは

開発・技術マネジメント革新大会(RD大会)は、RD&Eマネジメントの新潮流を皆様とともに研究すべく、JMAC日本能率協会コンサルティングRD&Eマネジメント革新センターが企画・主催し、今年で17回目を迎えます。

JMAC RD&Eマネジメント革新センターとは

JMACは、1950年代後半から、研究開発・開発設計・生産技術領域(略称:RD&E)のコンサルティング活動、調査研究・出版・セミナーなどを行い、産業界の発展に寄与すべく努力してまいりました。

RD&Eマネジメント革新センターは、国・業界・業種を越えて、研究開発、設計、技術に関する経営革新を推進するプラットフォームです。研究開発・技術開発活動の社会的役割と期待に応えるための諸活動の推進の中核機関となることを標榜しています。

午前 共通セッション (10:00~12:30)

※ 講演時間および内容は変更の可能性がございます。

基調講演

グローバル競争下での日本企業勝ち残りの条件 ～本田技研工業、サムスンSDIでのR&Dマネジメント実践を通じた考察～

名古屋大学 グリーンモビリティ連携研究センター 客員教授 兼 非常勤講師
エスベック株式会社 エグゼクティブアドバイザー
佐藤 登 氏

本田技研工業、サムスンSDIにて、自動車用大型電池の研究開発活動や研究所マネジメントおよび経営戦略に携わってきた経験から、両社の企業風土やR&Dマネジメントの違い(テーマ企画のあり方、スピード感、CTOの役割、メーカーの役割等)を比較します。また、それに加え、広い裾野を持つ電池産業全体における日本企業の強みと弱みの考察も行い、日本企業がグローバル競争下で勝ち残るための条件について課題提起したいと思います。最後に、日本人技術者の更なる飛躍に向けた期待についても述べたいと思います。

1978年 本田技研工業入社。1988年 東京大学工学博士。1997年 名古屋大学非常勤講師兼任。1999年から4年連続「世界人名事典」に掲載。本田技術研究所チーフエンジニアを経て2004年9月よりサムスンSDI常務就任。韓国のコーポレート研究所で5年間、本社経営戦略部門で3年4ヶ月勤務し、2012年12月末同社退社。その他、2005年度 東京農工大学客員教授併任。2010年度より秋田県教育視学監併任。2011年度 名古屋大学客員教授併任。



特別講演

日本の産業競争力強化とR&Dマネジメント ～これからのR&Dマネジメントにおける定石と課題～

昭和電工株式会社 技術顧問
塚本 建次 氏

韓国CTOクラブとの交流を通じて、先行技術のFirst Follower としての立場から、自ら技術革新を起こし、産業発展を推進するFirst Mover としての立場へ変貌していくべく、様々な課題を認識してまいりました。我が国でも、基礎科学の充実化、産学連携の強化、グローバル化への対応、オープンイノベーションの推進などに早急に取り組まなければ、韓国企業をはじめ、海外企業との競争に破れてしまうのでは？と危惧しています。日本の産業競争力の核となるR&Dにおいて、従来の常識にとられないマネジメントの実践が求められます。今回の講演では、素材産業B to Bの視点から、従来のR&Dマネジメントへのアンチテーゼを行い、これから求められる定石について述べたいと思います。

1972年4月 入社
2005年1月 アルミニウム事業部門 副事業部門長(執行役員) 兼 昭和軽金属(株) 社長
2006年1月 技術戦略室長(執行役員) 兼 戦略マーケティングセンター長
2008年1月 取締役 技術本部長 最高技術責任者
2012年4月 技術顧問



午後セッション

※ 午後セッションは、2部制になっております。それぞれ、A~C3つの講演の中から、ご興味ある講演を1つお選びください。組み合わせは自由となっております。
 ※ お申込みが多数となり会場の定員に達した場合、セッションへのお申込みを締め切らせて頂く場合がございます。
 ※ 講演時間および内容は変更の可能性があります。

午後1部 (13:20~15:00) ▼下記セッションからいずれか一つをお選び頂き、お申込みください

A-1 製品・技術革新・技術戦略セッション

日本のものづくり革新！『うるさら7』のコンカレント開発事例

ダイキン工業株式会社 空調生産本部 商品開発グループ 主任技師 岡本 高宏 氏

弊社は中国企業との提携により国内工場の生産台数が大幅に減少する危機に直面しました。この危機の中、ものづくりの再興を目指すため、国内のマザー工場全員が一丸となり起死回生をかけた次世代エアコン『うるさら7』の開発を行いました。

『うるさら7』では業界で実用化し得なかった新冷媒への転換と、かつてない室内機の構造改革に挑み、史上最高の省エネ効率を達成することに成功しました。本プロジェクトの成功の鍵となったのは、全部門一体となったコンカレント活動でした。本講演では『うるさら7』の開発を取巻く弊社の活動事例をご紹介します。



午後2部 (15:20~17:00) ▼下記セッションからいずれか一つをお選び頂き、お申込みください

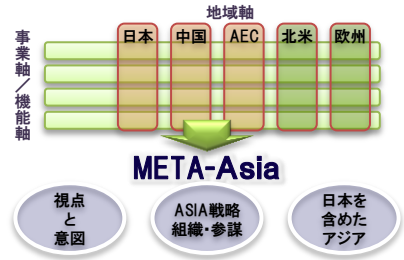
A-2 製品・技術革新・技術戦略セッション

チャイナプラス、新たなアジアビジネス戦略構築にむけて

株式会社日本能率協会コンサルティング シンガポール支店長 才川 哲治

日系企業の中国ビジネスを取り巻く環境は、長期化する日中諸問題、原材料費・人件費の高騰、鈍化するGDP成長率などにより、大きな曲がり角にさしかかってきます。本格的に「チャイナプラス」を検討する企業も出てきました。

このような状況の中、「アジア全体を見据えた戦略をどのように再構築すべきか？」について、弊社の現地駐在コンサルタントがその方向性と実践について、具体的な事例紹介を交え、提言いたします。



B-1 開発力強化セッション

日本人の目で日本の組織や風土をばらす～開発組織のグローバルな変革へのスタート～

HOYA株式会社 PENTAXライフケア事業部 医用機器SBU 事業管理統括部 人事総務部長 山本 哲氏

事業、組織、そしてマネジメント体制のグローバル化が進む弊社において、日本主導で機能してきた製品開発の変革は喫緊の課題です。

迅速なChangeに陥り、ゴールへの道筋を見誤らないためには、変革のスタート地点である我々の組織の実態(これまでどういう道筋を歩み、今、どういった状態にあるのか)をひもとくことが「変えていく」ための第一歩だと考えました。本講演では、開発組織の変革にあたって「日本人の目で日本の組織や風土をばらす」取り組みについてご紹介したいと思います。



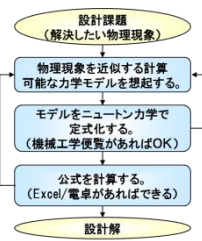
B-2 開発力強化セッション

アイザックコンセプト～原理原則に立ち返った設計力強化への挑戦～

ヤマハ発動機株式会社 技術本部 研究開発統括部 イノベーション研究部 PM開発グループ 主査 名古屋大学 グリーンモビリティ連携研究センター 招聘教員 辻井 栄一郎 (アイザック・辻井) 氏

近年、高効率化が設計論理をブラックボックス化し、設計手戻りの多発が、設計・製造グローバル化を阻んでいます。

本講演では、原理原則(ニュートン力学)に立ち返って設計課題の本質を解決する取り組みを通して、グローバル時代に通用する設計力強化への挑戦をご紹介します。(主な内容)
 ・本質を見つめず、作業的に設計する実態
 ・アイザックコンセプト
 (原理原則に立ち返った設計の試み)
 ・若手に設計者の魂を伝承する(挑戦と悩み)



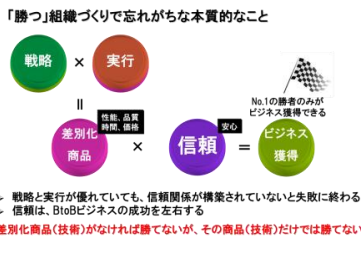
C-1 組織・人材革新セッション

R & D組織変革 = 強く、はやく、そして勝つ =

富士フィルム株式会社 エレクトロニクスマテリアルズ研究所 所長 後藤 孝浩 氏

電機・半導体業界のように日本企業の苦戦が強いられている一方で、スマートフォンに必要な不可欠な高性能材料の業界では日本企業の国際競争力は顕在です。

私たちは、光を操る有機材料を武器にスピードの求められる半導体材料開発の世界へ新規参入しましたが、全戦全敗でした。その苦難を乗り越え、勝てる組織に変化した過程と教訓をご紹介します。ポイントはメンバー一人ひとりの力の結集と、顧客との地道な信頼関係構築にありました。



C-2 組織・人材革新セッション

「おもしろいをかたちに」を実現する研究所を目指して

キリン協和フーズ株式会社 開発本部長 江木 衷 氏

国内市場が成熟する中、お客様への提案力、先行技術構築力が研究所に求められ、一方で、組織再編・企業統合も頻繁に起きています。本講演では、どのようにして組織の統合・融合を図り、新しいR&D体制をつくってきたのか。

具体的には、「おもしろいをかたちに」の下で進めてきた、現場発の創造的な研究風土づくり、自律的な研究現場づくりについてご紹介します。また、その中から見えてきた問題点、これからの取り組みについてもご説明いたします。



参加方法 下記URLまたはFAXでお申し込みください

http://www.jmac.co.jp/service/event/

FAX. 03-3434-2963

参加料／31,500円(資料・昼食・交流会・消費税込み)
定員／300名(お申込み順)

■参加申込方法

- 参加希望の方は、インターネットもしくは下記申込書にご記入の上、FAXにてお送りください。
- お申込み順にて受付、後日参加証・請求書をお送りします。

■ご注意

- 定員になり次第締切とさせていただきます。
- FAXでのお申込みは、開催日の3日前まで受付いたします。
- 同業者はお断わりする場合がございます。
- 諸事情により開催を中止させていただく場合がございますので予めご了承ください。
- ご案内のご送付先変更・中止などのご希望の方は、お手数ですがご希望内容記載の上、メール、FAXにて本大会事務局までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

■お支払いについて

- 参加料は請求書到着後1週間以内に請求書の銀行口座へお振り込みください。(振り込み手数料は貴社でご負担願います。)

■キャンセル規定

- 参加者のご都合が悪い場合は、代理の方の出席をお願いいたします。
- 代理の方も都合が悪い場合は開催日の前々日(土/日/祝日を除く)までに以下問合せ先までご連絡ください。
- 開催日の前々日(土/日/祝日を除く)までに参加者ご本人や代理出席の方の欠席のご連絡をいただきました場合のみ、入金確認後、振り込み手数料を差し引いた残額を返金させていただきます。
- 開催日前日(土/日/祝日を除く)や開催当日に欠席のご連絡をいただきました場合は、ご返金できませんので、予めご了承ください。

第17回 開発・技術マネジメント革新大会 申込書

参加証・請求書のご送付方法はどちらを希望されますか。

E-Mail希望

郵送希望

※PDF形式のファイルとなります。

貴社名・事業所名(フリガナ)

業種

- 1.食料品
- 2.繊維製品
- 3.パルプ・紙
- 4.化学
- 5.医療品
- 6.石油・石炭製品
- 7.ゴム・窯業
- 8.鉄鋼・非鉄金属・金属製品
- 9.機械
- 10.電気機器
- 11.輸送用機器
- 12.精密機器
- 13.その他製造業
- 14.電気・ガス業
- 15.運輸・通信業
- 16.卸売業
- 17.小売業
- 18.金融・保険業
- 19.建設・不動産業
- 20.サービス業
- 21.公共
- 22.その他

ご住所(フリガナ) 〒

▼午後の参加希望セッション(午後1部、午後2部)を選択して下さい

参加
責任者
※

氏名(フリガナ)

部署名
役職名

TEL FAX

E-mail

参加希望)各1つ選択してください

午後1部	<input type="checkbox"/> A-1	午後2部	<input type="checkbox"/> A-2
	<input type="checkbox"/> B-1		<input type="checkbox"/> B-2
	<input type="checkbox"/> C-1		<input type="checkbox"/> C-2

参加者

氏名(フリガナ)

部署名
役職名

TEL FAX

E-mail

参加希望)各1つ選択してください

午後1部	<input type="checkbox"/> A-1	午後2部	<input type="checkbox"/> A-2
	<input type="checkbox"/> B-1		<input type="checkbox"/> B-2
	<input type="checkbox"/> C-1		<input type="checkbox"/> C-2

参加者

氏名(フリガナ)

部署名
役職名

TEL FAX

E-mail

参加希望)各1つ選択してください

午後1部	<input type="checkbox"/> A-1	午後2部	<input type="checkbox"/> A-2
	<input type="checkbox"/> B-1		<input type="checkbox"/> B-2
	<input type="checkbox"/> C-1		<input type="checkbox"/> C-2

※印の方宛てに参加証・請求書をまとめてご送付します。(不都合がある場合は、備考欄にご記入ください。)

備考:

- 本個人情報は、弊社事業活動におけるセミナー、イベント、アンケートのお願いなどに活用させていただくことがあります。
- 弊社は、収集した個人情報を適切に取り扱い、第三者への提供は行いません。
- 本情報の訂正、削除などをご希望される場合には、お問合せ先「第17回 開発・技術マネジメント革新大会事務局」までご連絡ください。

問い合わせ先 株式会社日本能率協会コンサルティング 第17回 開発・技術マネジメント革新大会事務局

TEL : 03-3434-0063 FAX : 03-3434-2963 E-mail : event_consult@jmac.co.jp